「売るのは文化」「遊び心とお祭り気分」買場紗綾市活性化計画

計画地

計画地は観音山などの山に囲まれた盆地にあたり、東の山裾に鳴川が流れ、また、町の中心には本町通りが走り、江戸期から建てられた家々が点在し、歴史的町並みが色濃く残る「重要伝統的建造物群保存地区」を持つ群馬県桐生市、本町の「買場通り」。

概念

桐生織＝絹の織いで使用された着物を生産したことから、江戸時代より繊物の町として発展し、現在に至るが、産業構造の変化、人口減少による高齢化の影響で建造物を壊された時代と比較すると物寂しい感である。

ただ、町の住民たちの活動が実り、今のところ、繊物の町を特徴づける町並み保存運動が芽吹き、重伝建群の町として新たな文化発信を目指し、再び活気への兆しを掴むところである。

重要伝統的建造物群保存地区　江戸～昭和時代の家屋が残る（再生タイムス制作）

概要

本計画は、重伝建群への活動の再開けとして江戸初に再スタートした「買場紗綾市」が行われる「買場通り」に新たに建築群を加え、既存の建物性と融合し、今も、賑わいがある、買場らしい風情に満ちが増せていることを目指すものが、コミュニケーションが促進され、新しい世代の参加者を増やし、「紗綾市」はもとより「商生市並み」のさらなる活性化、繁栄を図るに貢献する、住民や観光客など様々な人々。

○新設の建物

新設する施設は「一階が買場通りに面する紗綾市の賑わい本拠となるデッキを持つ本部棟」とその本部棟から構てつながる「展示施設と住人のワンルームがある露店棟」、そして、「雨避けの広い屋として建てられた歴史を感じさせるレンガ棟Ⅱ」である。露天スペースや休憩カフェなどの役割や平時は駐車場となる機能棟。

○買場紗綾市

商生市の本町通りに始った構造。買場通りで月の第一土曜日に一年間行われる買場紗綾市。お年に繊物を中心に売っている、賑やか、である。

繊物都市として名高い桐生市ならいイベントである。

もともとの起源はこの通りで行われていた紗綾物の取引である。

切月に1度、開催されているこの日をによるテーマの変化がお客様への"おもてなしの心"となる。

1・1買場紗綾市のにぎわい

歴史：江戸時代の頃に繊物が盛んになり、発展のため、近くの時社で「紗綾市」として開催されていたものが、明治初期に廃絶のに伴い、物産組合所「買場紗綾市」となり、繊物の日曜開催の形をで取りつとういう、しかし、一度、没落を経た、昭和初期に復興していた。だが、時流様で、立地が、本町一丁目の北に配当のある場所、開始・経済効果が低おうとする動きが多い、平成初期から衰退した。当日は複数車の入れ代頃転点の道路の発展に機械製品や生活雑貨など各所も露店が並ぶ。

○住民の意見を反映して

住民は紗綾市の運営にあたり、すべては実現されていないが、過去に買場通りの印象や意見をしている。電線柱の撤去や道路の舗装の提案だ。その計画は住民が中心になり、アンケートを実施し、日常的観点から求められるように、一番多かったるものが提案するのはその通りにとって七連しいものだと思う。現在の通りが調声与利の景観調査になっているのはこの提案からだろう。

今回の提案では下図のように、その計画を受け継ぐ形で進めた。

←当時の計画が提案された記事

本町の水路が埋没すれば、買場通りにも引込みたい。

巨量舗装：現状に住民の意見を生かし取り入れた　　現戸与利舗装：巨量舗装以外の箇所は現戸与利舗装を残す

○既存の建物

この地は江戸時代に端かれた買場通りの様子である。今の桐生の盛からは想像できない様かいを見せている。通りを挟んで、40間の長さで統一感が軒を連ないている。現在は「ふれあい館」として活用いている様が「下屋を持つ総重壁様」のまさに際び、当時の姿を今に伝えている。また、時手前の通りはメインの本町通りである。当時はその本町通りには桐生川から引かれた水路が流れていた。昔とは二の水路を復活させようとする動きがある。今回の提案ではこのことから上図のような「水の活用」と当時の「建物の形状」をデザインに取り入れ進めた。

現在のふれあい館

桐生川から引かれている水路

買場通り北立面図　1：200

本部棟２階　1：200

本部棟１階　1：200

露店棟１階平面図　1：200
露店棟２階平面図　1：200

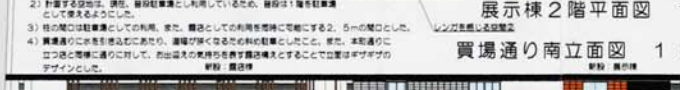
露店棟の設計主旨・・・賑音の点を強化

1）調生の形状と並ぶ、露店も著くないが、やや解消し、買場通りで紗綾市意味などが広々と調れるよしたりするため2階建の露店棟を解散した。

2）計置する空地は、調生、昼段駐車場として利用しているため、昼段は1階を駐車場として使えるようにした。

3）柱の間口は駐車場としての利用、また、露店としての利用を想味に可能にする、5mの間口とした。

4）買場通りに出を引き込むにあたり、道幅が狭くなるため斜め駐車とした。ここ、また、本町通りにロつきと等様に通りに対して、お出迎えの気持ちを表す露店構えとすることで出型はギザギザのデザインとした。



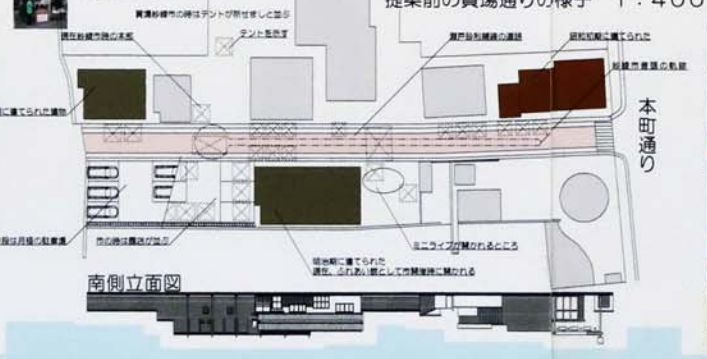
展示棟１階平面図　1：200

展示棟２階平面図　1：200

買場通り南立面図　1：200

北側立面図

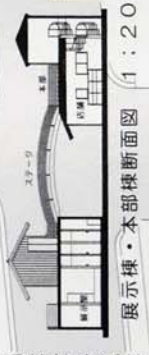
提案前の買場通りの様子　1：400



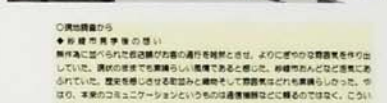
○本校との関わり

本校は、この買場通りのある重伝建群地区の近くに在り、その地区権度に向け一緒に取り組んできた。その一環として、平成14年に実測調査を実施し、買場通りに調存する植物を図面化している。今回はその図面を電子化し、活用させていただいた。当図に並ぶ立面図はその図面だ。

展示棟・本部棟断面図　1：200



アーチの上でミニライブを開催、参加者に見聞きしていただく、アーチは新東ではステージになる。



○調地調査から

◆紗綾市見学後の思い

無作為に並べられた呉服屋のお着の通行を観察とさせ、よりにぎやかな雰囲気を作り出していた。調状の並ぶでも賑やらしい風情であると感じた。紗綾市ぉんなに活気にあふれていた。歴史を感じさせる町並みと繊物そして雰囲気などれも素晴らしかった。やはり、本来のコミュニケーションというものは通信機器などに頼るのではなく、こういうイベントを通じての人れあいなのだと痛感した。時代の作りだけで済む時地、すなわち環境を主力にできるコミュニケーションの活性化を作り上げたいと思った。

←インタビューのようす
商生市長い買紗綾市の歴史について語っていただきました。
このインタビューがきっかけでいろんなアイデアをひらめくことができました。

商さんとの記念撮影

◆実行委員長商さんへのインタビューから

商さんは買場紗綾市の実行委員長である。20年前のスタートからの歴史、また、その前からの産業体の歴史を知る人である。その方からのインタビューで買場紗綾市に対して新い発見をを得ることができ、また、他の点で、いくつか、デザインのヒントを得た。「商生本町に並ぶ店は昔のように対して料の店長場合である。理由は不明だが、お客様への心遣えの気持ちそもそもっているのではこの気もある・・・。」「買場通りの二入口の本町通りには、会話があった。交通事情で立ち寄ってしまうだ、例え、その会話を重視させる動きがあり、この初も、アスファルト舗装を壊って、水路の復路を調査したようだ。」「また、もっと、若者の集まるイベントにしたい・・・。」など。

呉服のように天満宮に向かってくるお客様に対して開くお店で本町通りの風景は違っている。ここから駐車場のアイデアを考えることができた。

露店棟に生かしたアイデア

お客様

お客様にアイコンタクトすることによってコミュニケーションの輪を広げることができると思う。

↑水路調査の箇所
皆はここに水路が通っていた。
ここに水路があればさらに気持ちよく利用することができるだろう。

紗綾市看板の様子→
活気があふれていて観客も賑わっていた。この通りは買場紗綾市創業以来受け継がれている

今は子供の少ないイベントだが参加した当初によってできるのにどもが集まるとよい

◆調生を歩いての実感から

今の紗綾市は問題点を見つけるのが難しいくらい充実している。強いて挙げるとすれば雷天がところ狭しと並び、いい雰囲気ではあるが雑然としている点。たとえば、そのために紗綾市看板が少し、観客に見えたり、管弦楽部のミニライブも行われていたが調での印象が残ったところや、紗綾市以外の日開は通りの少ない通所であり、紗綾市の開催日と日常との境界を感じたところ。また、存在感を示す、レンガの防火壁との距離感を感じたところ。

←ミニライブのようす
普通の調で開かれていたミニライブ、会場を盛り上げていた。

レンガ防火壁→
今はつたが除事されておらずほとんどわからなくなっているが無い間文声に響いている